

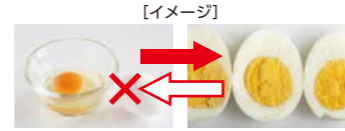
# 熱中症を疑ったときは何をすべきか？

熱中症の症状

- I度** 現場での応急処置で対応できる軽症  
めまい・筋肉痛・筋肉の硬直・大量の発汗
- II度** 病院への搬送を必要とする中等症  
頭痛・気分不快・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感
- III度** 入院して集中治療の必要性のある重症  
意識障害・けいれん・高体温・手足の運動障害

体温42°Cくらいで脳細胞のタンパク質が固まり、処置が遅れると**死**に至ります!!

ゆで卵を生卵に戻せないのと同じです。



本人が我慢をせず、同僚など周囲の人へ症状を伝えましょう!

## 熱中症を疑う症状

めまい・立ちくらみ・拭いても拭いても汗が出る・筋肉のこむらえり・頭が、がらがらする(頭痛)・吐き気がする・吐く・からだがかたくなる(倦怠感)・判断力・集中力が低下...

症状あり

check 1 意識の確認

意識がある

意識がない

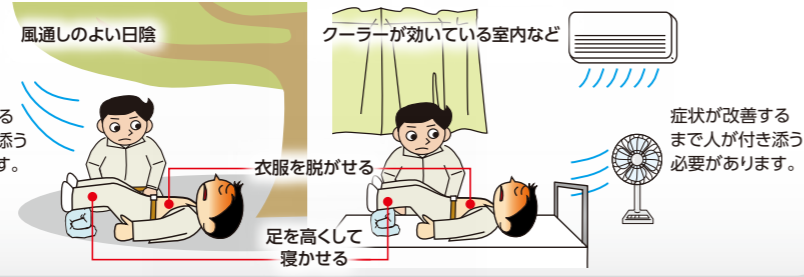
## 救急隊を要請

救急隊を要請したらすぐに応急処置を!!  
救急隊の到着前から涼しい場所へ避難することはもちろん、冷却を開始することが求められます。

参考:環境省「熱中症環境保健マニュアル」

### 現場での応急処置①

#### 涼しい場所へ避難



体温の冷却はできるだけ早く行う!!  
重症者を救命できるかどうかは、いかに早く体温を下げる事ができるかにかかっています。

### 現場での応急処置②

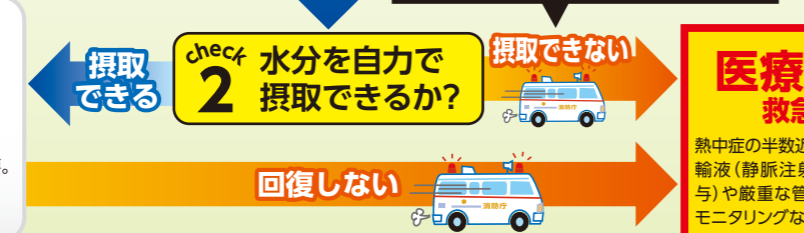
#### 脱衣と冷却



「呼び掛けや刺激に対する反応がおかしい」、「応えない」(意識障害がある)時には誤って水分が気道に流れ込む可能性があります。  
自力で水分の摂取ができないときは、緊急で医療機関に搬送することが最優先の対処方法です。

### 現場での応急処置③

#### 水分・塩分の補給



冷たい水を与える。  
大量の発汗があった場合には塩分補給も必要。  
補給には経口補水液やスポーツドリンク等が最適。食塩水(1Lに1~2gの食塩)も有効。



春の大型連休であるゴールデンウィーク。名称の由来には諸説がありますが、映画会社「大映」が1951年のこの時期に公開した映画がお正月映画やお盆映画以上にヒットし、多数の動員を生み出すことや活性化を目的として誕生した宣伝用語だと言われています。最初は映画業界のみで使われていましたが、次第に他の業界にも広がっていったようです。

レンタルのニッケン  
ホームページでも最新情報をお届けしています。是非ご覧ください。

安全ニュースのご活用についてのお願い  
弊社は皆様の安全作業に関するよりよい情報をご提供するため、安全ニュースの製作・配布に取り組んでおります。下記、ご理解いただき、ご活用いただけますようお願い致します。  
●安全ニュースの一部または全部において、個人・法人を問わず、弊社および引用先(各種団体など)の許諾を得ず、いかなる方法においても、無断で販売・複製・貸借・加工・加筆および、公衆送信(インターネットやそれに類した送信)などを利用して提供することを禁じております。  
●弊社は、本紙の内容において如何なる保証も行いません。  
●本紙内容に発生した障害および事故についても、弊社は一切責任を負いません。

### 安全運転アドバイス掲載中!

関係会社 エヌエスサービス株式会社では安全運転に関する情報をホームページにて掲載中。安全運転の推進活動などにお役立てください!



# 安全ニュース

2018年 5月号 NO. 197

株式会社レンタルのニッケン  
編集・発行  
安全技術部 / 営業支援部  
お問い合わせ  
TEL.03-5512-7411  
発行日  
2018年5月1日



### 特集 墜落・転落災害

- 建設業における墜落・転落による死亡災害発生状況
- 墜落・転落災害例と防止対策例
- 熱中症を疑ったときは何をすべきか?

2018年 6月号の予告

全国安全週間



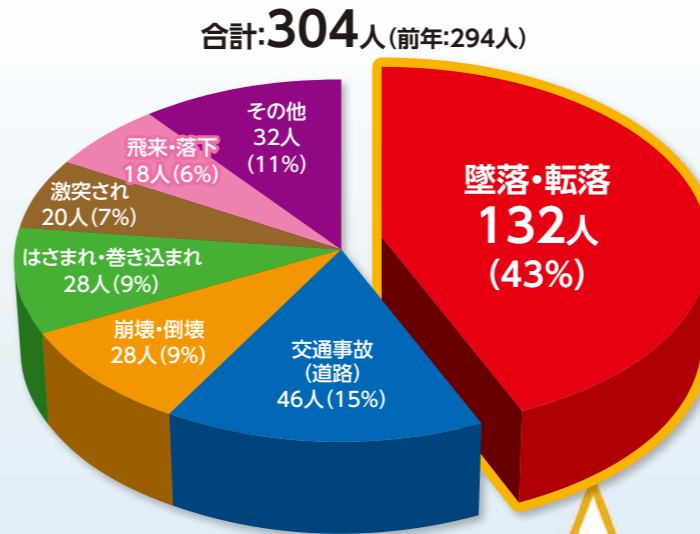
## No more! 墜落・転落災害 @建設現場

2017年秋以降、建設業における死亡災害が前年に比べて10%以上増加!!

参考:厚生労働省「No more! 墜落・転落災害 @建設現場」

参考:厚生労働省 職場の安全サイト「労働災害発生速報」

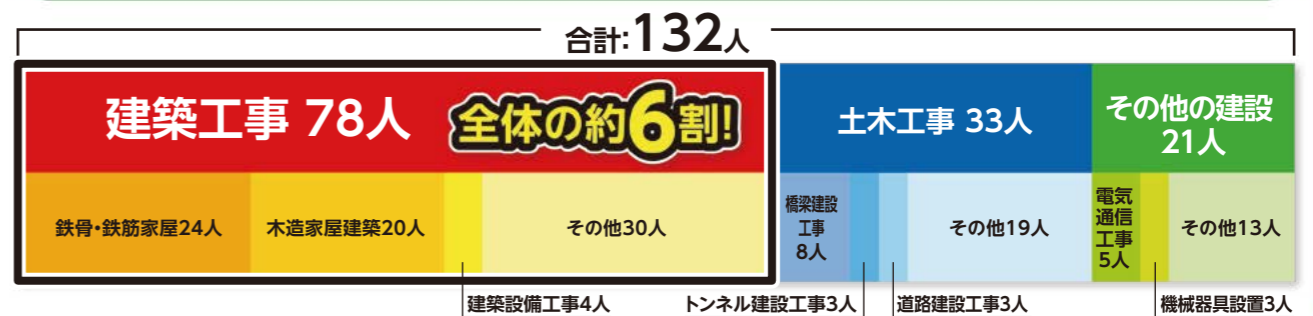
## 建設業における墜落・転落による死亡災害発生状況



### 2017年建設業における事故の型別死亡災害発生状況

左のグラフは、2017年の建設業における死亡災害の発生状況です。死者数は全体で304人と前年より10人増加しました。事故の型別で最も多いのは「墜落・転落」の132人であり、全体の43%を占めています。次いで「交通事故(道路)」46人、「崩壊・倒壊」28人、「はさまれ・巻き込まれ」28人と続き、上位4分類で全体の約8割となり、特定の原因に集中していることがわかります。また下記グラフの墜落・転落による業種別死亡災害発生状況を見ると、建築工事が全体の約6割を占め1番多くなっていることがわかります。

### 墜落・転落による業種別死亡災害発生状況



建設業における三大災害のひとつ「墜落・転落災害」は、業界でも様々な事故防止の活動や対策が行われ減少傾向にありますが、2017年では132人の死亡災害が発生しており、これらの多くが建築工事で全体の約6割を占めています。中面では建設工事現場でよくありがちな災害例と防止対策例をまとめました。皆様の作業所での災害防止活動にお役立て頂ければ幸いです。

★ ホームページにも掲載しております!是非ご覧ください。★